

日本ゼオン、シクロオレフィンポリマー製のLCD用拡散板工場を竣工

2004年4月14日

日本ゼオン（社長 古河直純、東京都千代田区）は、シクロオレフィンポリマー（COP）製の液晶ディスプレイ（LCD）用拡散板工場の竣工式を、4月14日に当社高岡工場（富山県高岡市）で行った。今回の建屋とクリーンルームの完成に引き続き、成型機の設置を行い、5月中旬から拡散板の生産を開始する予定である。

投資金額は約10億円で、生産能力は年間100万枚からスタートし、順次拡大していく計画である。今年度の売上高予想は10億円。

ゼオンの100%子会社である（株）オプテス（社長 正宏、栃木県佐野市）は、昨年度よりCOPのゼオノア製拡散板の製造、販売を開始しており、今回の本格的拡散板工場での生産もオプテスが実施する。

近年、パソコン用液晶モニターや大型液晶テレビに用いられるLCDの需要が急拡大している。LCDでは光源の使用が必須であり、それが直下型の場合には、光を均一に拡散させるための拡散板が使用される。

ゼオノアはその特徴として、

- (1) 吸水性がほとんど無く、20インチ以上の大型の拡散板でも変形の恐れが無い
- (2) 比重が小さく、拡散板を軽くすることができる
- (3) 変形し難いので拡散板の厚さを薄くすることができる
- (4) 加熱溶融時の流動性が良いので射出成型が可能であり、複雑な形状のものも成型可能である


等の優位性を有している。

ゼオンおよびオプテスはCOPの精密加工事業を今後とも拡大、発展させ、すでに生産しているLCD用光学フィルムのゼオノアフィルムや今回の拡散板を中心として、高岡工場を精密加工の一大拠点としていく計画である。

COPの補足説明

当社は、ナフサからエチレン、プロピレンを製造する際に副生されるC5留分の総合利用を推進しており、COPはC5留分を抽出分離して製造するジシクロペンタジエン（DCPD）が原料。当社が1990年に世界に先駆けて独自に開発、上市したCOPの高級グレードである「ゼオネックス」は、

透明性樹脂の中でも吸水性が極めて低いことによりシート化しても反りが少なく、加熱溶融時に流れやすいため精密成型性が良く、また競合の透明樹脂であるPCやPMMAに比べて比重が小さいなどの特性を持つ。さらに本樹脂は高透明性や低複屈折性などの優れた光学特性を有しており、カメラ付き携帯電話やデジタルカメラ・コンパクトカメラのレンズ・プリズム、OA機器のピックアップレンズなど光学用途、CD、MDやDVDなどの光ディスク用途などで使用されている。また当社は98年に、高透明性を維持し、耐衝撃性と耐熱性を改良したCOPの汎用グレードである「ゼオノア」を上市した。LCD用導光板・拡散板、光学フィルム、自動車ヘッドランプのエクステンション、食品用容器、医薬品分野の容器や包装材などに幅広く採用されている。

 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 CSR統括部門 広報室
Tel : 03-3216-2747

[▶ お問い合わせフォーム](#)